

【部会名】青年部会

【タイトル】35周年記念・上海研修旅行

【日時】平成18年10月7日(土)～9日(月)

【概要】

青年部会発足35周年を記念して、10月7日(土)から9日(月)まで、秋山青年部会長以下総勢十三名で上海視察研修旅行を行なった。

上海空港に降り立ち、**世界最速のリニアモーターカー**に乗車。瞬く間に時速430キロまで加速して、上海市内までの約30kmを8分弱で結ぶ。思ったよりも振動が大きく、乗り心地は今一つというのが正直な感想であった。

翌日は、秋山部会長の紹介により「**太陽電器有限公司**」の工場を見学。創業してから12年で、従業員三千人を超える大企業になったという説明を聞き、急成長する中国のパワーを実感した。

この日は、昼と夜の二回ともにスッポンが出たのであるが、丸ごと一匹がスープや大皿に鎮座しているのには閉口した。本場の中華料理は、油と香辛料(特に八角)がきつく、二日目にもかかわらず、日本食が恋しい。日本での中華料理に慣らされた我々日本人の舌には、**本場の本格的な中華料理**は厳しかった。

最終日は午前中に上海市内を観光。各人お土産の中国茶などを購入した後、昼食は上海蟹を賞味。そして夕方の便で無事に帰国した。

上海滞在中に実感したことがいくつかあるが、まずは**交通マナーの悪さ**。日本では歩行者優先であるが、中国では逆に車優先で、歩行者は車に注意しながら道路を横断しなければならない。街中では車がクラクションを鳴り響かせ、隙があれば割り込もうという自己中心的な運転をする。日本人が上海で車の運転をするのは不可能に近い。

最近の日本でも論じられている**格差の問題**が中国にも存在する。中国における格差は半端ではない。工場で働いている従業員の月給が一万六千円程度である一方で、年収三千万円を超える富裕層が中国全人口に対して8%も存在している。チャイニーズドリームが存在する一方で、偽物の時計や財布を売りつけに来る物売りや赤ん坊を抱いた乞食が街中に溢れているのが上海という街の実情であった。

高層ビルの建築ラッシュが物凄かったが、土地は国が所有しているので、公共の利益があれば開発予定区域の住民は強制収用で退去させられてしまう。国家権力による地上げが行なわれるので、開発は瞬く間に進むようだ。

日本という国に生まれて来て良かったと実感した上海の三日間であった。



リニアモーターカーにて時速 430km を体験





上海・摩天楼をバックに



中国庭園にて

